

# 令和7年度 豊田市環境審議会 第1回専門部会（自然共生社会） 会議録

【日時】 令和7年8月19日（火）午前9時から11時

【場所】 豊田市役所 東庁舎4階 スタッフルーム

【出席者（部会長以下五十音順）】

部会長 増田 理子 （名古屋工業大学 社会工学専攻 教授）

委員 大坪 瑞樹 （豊田市自然観察の森 所長）

渡部 教行 （豊田市自然愛護協会 会長）

（事務局）環境政策課 塩谷課長、浦野副課長、弘中担当長、山井担当長 ほか

【欠席者】 なし

【傍聴人】 なし

- 【次第】
- 1 部会長挨拶
  - 2 議題
    - （1）現計画について
      - ・環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について（協議）
    - （2）次期計画について
      - ・パブリックコメントの結果及び対応について（報告）
      - ・環境基本計画進捗管理方法について（報告）
  - 3 その他
    - ・意見交換

1 部会長挨拶

2 議題

(1) 環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について(協議)

【資料 1、補足資料 1-1、補足資料 1-2】

部会長	「環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について」の説明を事務局から願います。
事務局	(資料 1、参考資料 1-1、参考資料 1-2、参考資料 1-3、参考資料 1-4 について説明)
部会長	事務局の説明について、意見、質問等をお願いしたい。
委員	参考資料 1-1 で施策の評価に「遅れ」がある中、参考資料 1-2、参考資料 1-3 の各事業や成果指標では「目標通り推移している」と示されているのはなぜか。
事務局	参考資料 1-2、1-3 では、一つの施策の中にぶら下がる個々の事業に対する評価になっており、参考資料 1-1 では、施策の評価となっている。
委員	参考資料 1-3 では、目標値が示されているため、目標達成の有無だけで評価するのが妥当ではないか。
事務局	個々の事業の評価結果が成果指標に取り込めていないのは昨年度の部会でも同様の指摘いただき、課題として認識している。次期計画では解消したい。
事務局	事業や成果指標を参考に各施策の評価を事務局案として示しているが、変更すべき点があればご指摘いただきたい。
委員	施策の柱 2.4 の「健全な人工林づくり」は「順調」と評価しているが、成果指標の「人工林の間伐面積」の目標値は達成していない。これは「遅れ」として評価すべきではないか。
部会長	人工林の間伐面積の遅れは、人手や予算の確保ができていないことが要因と考える。予算を確保するためにも「遅れ」として評価し、市の課題として抽出すべきではないか。
事務局	間伐面積について所管課にヒアリングしところ、環境基本計画策定後に森づくり基本計画の見直しを行った際に目標を後ろ倒した。そのため、森づくり基本計画では計画通り事業を進めることができていることを受け、「順調」という評価にしている。このような背景を評価に書き加える。
部会長	施策の柱 2.5 の成果指標で企業と市民活動団体のマッチング件数を設定しているが、ニーズをマッチングさせるのは難しいと考える。
事務局	企業等から相談に対応した実績はあるが、マッチングまで至ることが少ないため、成果指標のマッチング件数には反映されていない。
部会長	相談・支援件数も含まれるような指標に変更してはどうか。
委員	企業の取組の件数を増やすための支援を充実することを優先すべき

	ではないか。企業が取り組んでいる生物多様性に資する取組を PR し てあげること支援と言える。
事務局	次期計画では、成果指標に「生物多様性保全に関する事業者・団体の 支援等の対応件数」を据えており、状況に応じて様々な形で支援を実 施していく。
委員	施策 2.2 の成果指標に「サイエンスミュージアムネットに登録された 標本数」があるが、参考資料に登録を取りやめたとある。指標にして いる以上、継続して登録をしてもらいたい。
事務局	標本の収集は博物館と連携し継続して実施しているが、サイエンスミ ュージアムネットへの登録に至っていない状況である。記載内容を修 正する。

## (2) 次期計画について

### ①パブリックコメントの結果及び対応について（報告）【資料 2、参考資料 2-1、参考資料 2-2】

部会長	「パブリックコメントの結果及び対応について（報告）」の説明を事務 局から願います。
事務局	（資料 2、参考資料 2-1、参考資料 2-2 について説明）
部会長	事務局の説明について、意見、質問等をお願いしたい。
部会長	パブリックコメントの結果から、取組の周知が足りていないと感じ た。自然観察の森をはじめとした施設も充実している中でなぜか。
委員	施設自体の認知度が低いことに加え、事業が市民のニーズに沿って いないことが要因と思われる。
部会長	SNS での発信も効果的と考える。
委員	施設に、より親近感を感じてもらうために、施設のスタッフが舞台裏 を動画で発信しており、一定の効果を感じている。
事務局	引き続き認知度向上に向けた情報発信の方法を検討していく。

### ②環境基本計画進捗管理方法について（報告）【資料 3】

部会長	「環境基本計画進捗管理方法について（報告）」の説明を事務局から 願います。
事務局	（資料 3 について説明）
部会長	自然共生分野の成果指標は「件数」が多い。人口が減っていく中、絶 対数で評価するのは達成確度に少なからず影響が生じていくと思わ れる。
事務局	評価する際は、そのような情勢の変化も含めて要因分析をしっかり行 っていききたい。

部会	それではこれで議事を終了します。事務局へ進行をお返しする。
事務局	次回の予定は、令和7年9月29日（月）午前10時00分から環境審議会本会議を開催させていただく。